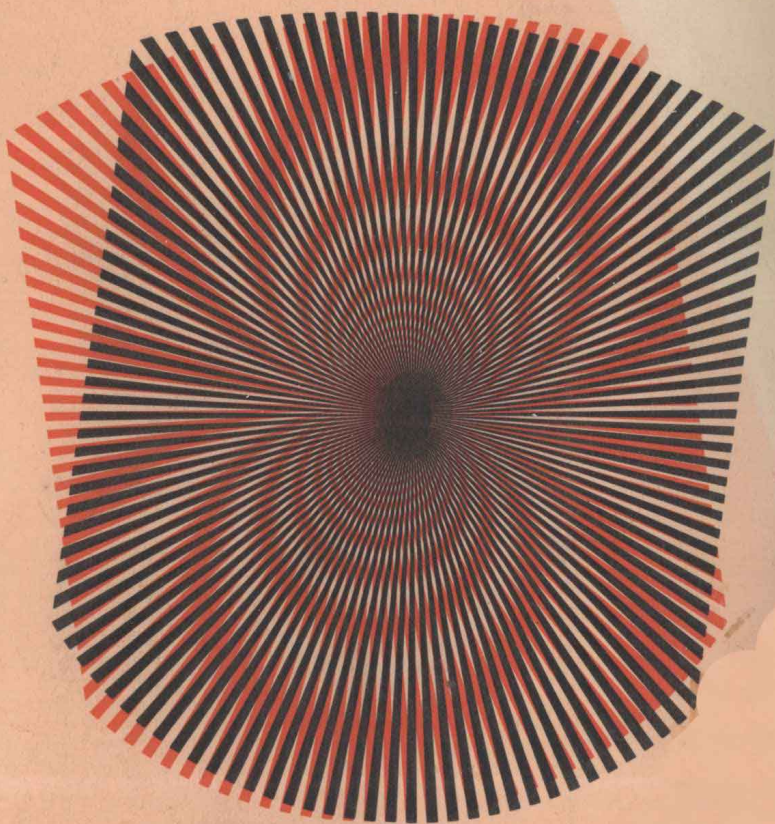


在庫管理の話

南川利雄著

ビジネス新書



ダイヤモンド社

著者略歴

みなみ かわ とし お
南 川 利 雄

1911年生れ。日本大学工学部と経済学部を卒業。工学博士、技術士。数会社の役員、大学の教授、官公庁の委員や顧問をして、現在、日本生産科学研究所長、日本資材管理者協会副会長、早稲田大学講師、数官公庁の委員や顧問、数会社の役員。

著書——「資材管理」「購買管理」「設備管理」「運搬管理」「倉庫管理」「在庫管理」「価値工学」「省力化技術」など 110冊余。

在庫管理の話

昭和48年11月29日 初版発行
昭和55年12月5日 11版発行

著 者 南 川 利 雄

© 1973 Toshio Minamikawa

発行所 ダイヤモンド社

郵便番号 100
東京都千代田区霞が関1-4-2
編集電話 東京 (504) 6403
販売電話 東京 (504) 6517
振替口座 東京 9-25976

編集担当/羽鳥忠一

落丁・乱丁本はお取替いたします

文弘社印刷・中西製本

2234-035390-4405

ビジネス新書

在庫管理の話

南川利雄著

ダイヤモンド社

まえがき

在庫を管理することは一九二八年（昭和三年）ごろから始まりました。当時は、貯蔵量の基準をきめて在庫数量の一定線を保つようにはかり、貯蔵量の最小値を設けてこの量になったら入庫させる準備をしたり、最大の貯蔵量をきめてこれ以上の量を在庫させないといった程度のものでした。

そのとき、物品の保管には棚がよいとされ、それまで家庭の納戸^{なぐど}とか寺社の庫裏^{くら}などに使用されていた木製の棚を、工場職場に持ち込ませて整理するようにしました。

しかし当時は「在庫管理」とはいいませんでした。「在庫管理」といいはじめたのは、一九四四年（昭和十九年）ごろからです。

それ以来、今日のようにコンピュータを使って在庫管理をするようになってくるまで、約五〇年を経過し、いまでは工場はもちろん商店でも在庫管理をするようになりました。さらに最近では、在庫管理は経営管理の重要な手法とされるようになり、ことあるたびに問題とされます。

幸いに在庫管理をうまく行なつて、経営不振からみごとに脱却した例を、最近ではよく聞くようになりました。在庫管理が軌道にのれば、資金ぐりが楽になり、取り扱う物品の品質が保証されて信用がつくからです。

とかくむずかしく思われていた在庫管理が、この一〇年来、やさしい好例が示され、その手法も手順に従つて行なえば、容易なものであることが立証されてきたからです。

それがいまなおめんどうなものであるとされるのは、そこに政策や思惑が入ってくるからです。

スタートしてから半世紀たったこのあたりで、いまの在庫管理を整理するとともに、最近の動向をもにらんでまとめたのが本書です。

在庫管理はこれからいろいろに進展し変化していくと思います。そして新しい経営管理を行なうには、在庫管理の知識が欠かせぬものとなります。

現在の在庫管理の手法でも十分に役にたちますが、これからの新しい手法を学ぶことは、さらに重要な役割をもつものとなりましょう。

本書は、在庫管理のそうした要点を示したものです。

一九七三年十月二十四日

南 川 利 雄

目次

まえがき

I 在庫管理とは

1 在庫管理の意義	一
2 在庫について	一六
3 在庫管理の目的	三三

II 在庫管理の種類と特性

1 素材と原材料の在庫管理の特性	三七
2 仕掛品の在庫管理の特性	三〇
3 部品の在庫管理の特性	三三
4 製品の在庫管理の特性	三七
5 商品の在庫管理の特性	四〇

6	總括的在庫管理の特性	三
---	------------	---

III 在庫品と在庫管理品

1	在庫品と在庫管理品	四
2	在庫品の区分	四七
3	在庫管理品の決定	五七
4	在庫管理品の区分	六〇

IV 在庫数量

1	在庫数量をきめる前提	六三
2	在庫数量の種別	六七
3	在庫数量の計算	七四

V 在庫管理の運営

1	在庫管理運営の方向づけ	八八
---	-------------	----

VI

在庫管理と生産管理と資材管理

2	物品の受入れ	二二
3	物品の保管	六六
4	物品の払出し	一〇〇
5	物品の取扱い	一〇三
6	物品の在庫調整	一〇六
7	在庫ゼロ方式	一〇八
8	先入れ先出し方式的在庫管理	一一四
9	あと入れ先出し方式的在庫管理	一二六
10	在庫物品の棚卸	一二九
1	在庫管理と生産管理	一三五
2	在庫管理と運搬管理	一三七
3	在庫管理と資材計画	一二九

4	在庫管理と購買管理	一三二
5	在庫管理と発注方式	一三三
6	在庫管理と倉庫	一三七

VII 在庫品を管理するに要する費用

1	在庫管理費について	一四三
2	在庫管理費率	一四五
3	在庫管理費率の値	一四六
4	在庫管理費率の用途	一四九

VIII 在庫管理の最近の動向

1	卓上在庫管理機の活用	一五三
2	コンピュータによる在庫管理	一五六
3	データ通信装置の利用	一六三
4	システム・エンジニアリングによる在庫管理	一六六

目次

5	無人倉庫に関連する在庫管理	一七
6	情報処理との関連による在庫管理	一八
7	物的流通管理と連繫する在庫管理	二二
8	価値工学にもとづく在庫管理	二六
9	信用管理方式による在庫管理	二九
	付 参考となる図書の一部	二九
	索引	三六

I 在庫管理とは

1 在庫管理の意義

在庫管理とは 在庫管理というと在庫数量を管理するように考えて、適正な在庫数量を保持することに専念しがちですが、在庫管理なるものは数量管理を主体とするものではありません。

もちろん数量管理は重要な科目の一つにはちがいませんが、そのみを主眼とするものではないのです。

在庫管理は、今日のように情報網の発達した社会にあって、その情報をよく把握して、時流に負けて押し流されないように立ち回るためのものです。良品を在庫していれば問題はありませんが、時代遅れになった陳腐化品を在庫していたら、その情報はいつの間にかいち早く関係企業に流れていって、信用を落とすことにつながります。

また、在庫品がたとえ良品であっても、あまり持ちすぎていると、資金ぐりなどの点からかえって警戒視されて、よい結果を招かぬことがあります。その反対に少なく持ちすぎても、資金力を疑われて企業の発展を妨げることがあります。

それゆえ、在庫管理はその運営する方針をはじめに明確にきめておきます。たとえば在庫品を持つのか持たないのか、その在庫品はどこに持つのか、たくさん持つのか少なくて持つのか、それらはいつからいつまでとするのか、といった方針をたてます。そのうえで在庫管理に入ります。

ついで在庫をさせる品目には何を選ぶか、といういよいよ具体的な業務に入っていきます。これらの業務の内容については、あとで述べましょう。

在庫管理は一見むずかしく見えますが、順序を追って処理していけば、決してむずかしいものではありません。

在庫管理は、需要供給の相対関係を順調に進捗させて企業相互間、あるいは当事者間の融和を高めて、相互信頼の場をつくります。それは、在庫している物品の品質を保証することにつとめ、求めに応じた満足なる供給をし、余分な在庫管理費を浪費しないように工夫をしてトータル・コストを削減するように努力するからです。努力するというより在庫管理にはそうせねばならぬ使命があるのです。

I 在庫管理とは

在庫管理の役割

在庫管理をする有意義さは、一般に企業の繁栄をもたらすことにあります。企業には多かれ少なかれ物品が必備されます。生産を主とする企業にあっては、物品のない生産はありません。サービスを主体とする企業にあっては、物品は設備とサービス品という姿で必要となります。事務関係のみの企業にあっては、事務用品や什器類の備品は必要になります。

在庫管理をすると、つぎに示すような利点が生まれてきます。

まず資金ぐりが楽になります。在庫に要する投資額を、極端な場合はゼロにすることができからです。

そのために経営が楽になります。素材や製品や商品に要する資金を、経営の他の資金に回せるので、経営の新しい発展への可能性が高まります。

ついで生産管理がうまくいきます。必要な物品を、必要なときに、必要な量だけ供給することをねらいとしているからです。

とくに工程管理をうまく推進させる母体となります。工程を乱される主な原因は、必要とされる物品の欠品にあるので、それを根本から取り除くようにするからです。

さらに、運搬管理も楽にやれるようになるし、倉庫管理も有効に展開され、方々に散在しがちな物品をきれいに整頓するので、工場レイアウトがよくなります。それゆえ企業の

環境がすっきりして明るくなります。

古ぼけた物品の散在がなく、撤去された設備装置の残骸の放置もなくなり、残材の保管もなくなりますので、スペースがすっきりとなり職場がきれいに片づくので、環境は見た目に一段とよくなります。

それのみか、不安定な物や不安全な物が片づけられるので安全職場になります。職場環境の改善が叫ばれている今日、こうした面にはたらく在庫管理の役割は非常に大きいものがあります。

在庫管理の内容

在庫管理の役割を果たすために、在庫管理の業務の内容として、一般的につきのものがあげられます。

- (1) 在庫管理する方針はどうするか。これにはまず在庫なるものの方針をきめて、のちに在庫管理の運営の方針をきめます。
- (2) 在庫する品目は何を選ぶか。つまり何を在庫させるかをきめるのです。
- (3) 在庫管理をする品目は何にするか。在庫する品目をきめたいうえで、その中からどの品目に対して在庫管理をするかを定めます。
- (4) 在庫品の区分はどうするか。これには時間的問題からする区分、主要度、用途、場所上、諸種の状況などから区分するものがあります。

- (5) 在庫数量はいくらにしたらよいか。在庫ゼロか、適正量か、過大在庫かなどです。
- (6) 在庫統制はどうするか。在庫を調整したりコントロールするのに、抵抗のない無難な方法をみつけます。
- (7) 在庫しておく期間はどのくらいがよいのか。これに対してキメ細かく検討して時間単位でみることもあります。
- (8) 在庫する方法はどうするか。企業の経営目的に沿った在庫方法を考えます。
- (9) 在庫する設備はどうするか。設備の程度はどのくらいがよいのか、規模はどうするか、方式などをきめます。
- (10) 在庫にかかわる費用はどのくらいとするか。この費用には金利や人件費やその他の経費など各種のものがからみ、その値は大きなものとなりがちですからセーブせねばなりません。
- (11) 在庫管理の運営はどうするか。在庫品の取扱いや在庫品を管理する基本的な運営などについて考えます。
- (12) 不健全な在庫はどのように管理するか。不良品、過剰品、死蔵品などの区分や処分方法などの管理をすることです。
- (13) 物的流通問題との関連はどうするか。流通センター、保管センターなどからむ在